

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：23503

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K10432

研究課題名（和文）育児期の双子の母親としての自信尺度の作成

研究課題名（英文）Development of a Scale of Mothers' Confidence while Raising Twins

研究代表者

渡邊 由香（Watanab, Yuka）

山梨県立大学・看護学部・助手

研究者番号：30792030

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）： 先行研究より双子の母親としての自信を測定する項目を検討し、31項目から構成される質問紙を作成した。作成した質問紙を用いた調査により有効回答が得られた142人を分析対象とし、項目分析にて精選した21項目にて探索的因子分析を行い、3因子20項目を抽出した。その内容から《双子の個性の理解と育児の能力》《双子の母親としてのゆとり》《双子の母親としての有能感》と命名した。尺度のCronbachの係数は全ての因子において0.7を超える値を示し、I-T相関、下位尺度得点間相関、基準関連妥当性の相関係数は有意な正の相関を示した（ $p < 0.01$ ）。これにより尺度の信頼性および妥当性は確認されたと判断した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で開発した尺度は、双子を育児する母親の特徴的な課題である双子の個別化が質問項目に表されている点で新規性があるといえる。本尺度を使用し、双子の母親としての自信を客観的に測定できることは、双子の母親としての自信の実態が明らかにされるだけでなく、双子の母親自身が自分の自信に気づく機会ともなることから、双子の母親の個別性に合わせた効果的な育児支援につなげることが期待されると考える。さらに、20項目の質問項目数は、育児負担が大きい双子の母親でも簡単に回答できる項目数であり実用性が高い。双子の母親を対象とした看護研究を発展させる上での指標のひとつとして、活用できる可能性があると考えられる。

研究成果の概要（英文）： Through precedent study, we examined items that measure confidence as a mother of twins, and a questionnaire consisting of 31 items was developed. An exploratory factor analysis was conducted on 21 items carefully selected by item analysis on 142 valid responses. As a result, three factors with 20 items were identified and labeled as "understanding of twins' individuality and ability to raise children," "sense of comfort as a mother of twins," and "sense of competence as a mother of twins" based on their contents. The Cronbach's alpha coefficients of the scale were above 0.7 for all factors, and the item-total correlation, the correlation between subscale scores, and the correlation coefficient of criterion-related validity were significant and positive ($p < 0.01$). The above results were considered to confirm the reliability and validity of the scale. The use of this scale is expected to allow more effective support for mothers of twins to be examined.

研究分野：母性看護学・助産学

キーワード：双子 母親 育児 自信 尺度開発

1. 研究開始当初の背景

わが国の多胎の出生数は、2015年以降持続して1万件余りで推移しており、そのうちの99%は双胎である(母子保健の主なる統計, 2018)。双胎妊娠は産科学的にハイリスクであるため、妊娠中の母親の関心は母親自身と双子の身体的変調に集中し(石村他, 1999)育児について考える余裕はあまりない。その上、双子の育児に関する情報は得にくく(服部他, 2005)、双子の育児のイメージは持ちにくい状況にある。産後は、このような状況のまま二人の子どもを育児することとなり、睡眠不足や疲労などの身体的負担だけでなく、ストレスなどの精神的負担が単胎児の母親よりも高い(横山, 2002; 横山他, 2001; 横山他, 1995)。そのため、双子の母親は単胎の母親と比較し、肯定的感情よりも否定的感情が高い傾向にあり(三宅他, 2014; 杉本他, 2008; 横山他, 2004)、単胎の母親より母親としての自信が低いことが容易に推測される。双子の母親の自信の低さは、愛着形成や子どもの発達にも影響を及ぼす(西原他, 2006)ことから、双子の母子が健全な親子関係を構築するためには、これまで主眼とされた否定的感情を低下させるための育児支援にくわえ、双子の母親としての自信を高める支援が重要となる。

母親としての自信は、母子相互作用の中で母親がわが子の要求に答えることにより得られ(前原, 2005)、育児幸福感や母親であることの満足感をもたらす(清水, 2013; 前原他, 2016)、母親になる事への適応と肯定的な母子関係を築くために必要である(Zahr, 1991)。日本では2005年頃より母親の肯定的感情に関する研究が増加し、母親としての自信を評価するための尺度(前原他, 2005; 小林, 2010)が開発された。それにより、育児支援の効果が評価でき、母親としての自信を高めるための具体的な育児支援が検討されている。しかしこれらの研究は、単胎の母親を対象としたものが主である。

一方、双子の母親の肯定的感情は、双子それぞれの特徴や違いを見つけること(今野, 2016a)や、双子一人ひとりの個性をとらえそれぞれの要求に対応できること(小澤, 2010; 小澤他, 2007)など、双子の母親しか味わえない体験から得られることが明らかとなっている。さらに、二人の要求を同時に満足させてあげられない葛藤(嶋松他, 2004)や、公平に二人の世話をしたいができない罪悪感(Anderson, et al. 1990; Beck, 2002)などの双子の母親特有の思いがあり、母子の愛着形成プロセスを複雑にしている可能性がある(Abbink et al, 1982)。したがって、双子と単胎児の育児は単なる量的な違いだけではなく、質的にも異なることが推測された。そのため、双子の母親の自信を、既存の尺度で適切に測定するのは困難であると考えた。しかし現在、双子の母親としての自信を評価する尺度は国内外ともに存在しない。

双子の母親としての自信を客観的に測定できることは、双子の母親としての自信の実態が明らかにされるだけでなく、双子の母親自身が自分の自信に気づく機会ともなる。さらに、育児支援の評価指標として活用することで、双子の母親へのより効果的な支援の検討が期待される。双子を育児する母親の肯定的感情を高める支援を充実させるため、双子の母親の肯定的感情を適切に評価できる指標の作成が求められると考えた。

2. 研究の目的

本研究では、双子の母親としての自信を適切に測定する尺度を作成し、信頼性と妥当性を検証する。

3. 研究の方法

双子の母親としての自信を測定する尺度は、以下のプロセスにて作成された。

1) 仮説構成因子の検討

自信、母親としての自信、双子を育児する母親の愛着形成や肯定的感情に関する文献検討から、双子の母親としての自信の構成概念を検討した。さらに、構成概念を表す仮説構成因子について研究者間で検討を行い、双子一人ひとりの個性の理解、双子の個性に応じた育児、双子の母親としての満足感、他者との関係調整の4因子を仮説構成因子として抽出した。

2) 質問項目の検討

双子の母親としての自信に関する項目は、双子の育児や愛着形成に関する先行文献および既存の母親としての自信に関する尺度を参考に検討を行った。

双子の母親の自信に影響すると思われる育児場面や状況を列挙し整理した結果、62項目が抽出された。その後、双子の母親としての自信の仮説構成因子に基づき43項目に絞り込んだ。さらに、内容妥当性について研究者間で検討し33項目とした。この33項目(逆転項目含む)を用いて6名の双子の母親にプレテストを行って表面妥当性を検討し、最終的に31項目とした。

3) データ収集

質問紙は、対象者の属性(母親の年齢、出産経験、双胎の膜性、双子の月齢、双子の出生週数と体重、双子の健康状態、育児協力者)、本研究で作成した双子の母親としての自信に関する質問31項目および基準関連妥当性の検証のために、日本語版母親としての自信質問紙: J-MCQ(小林, 2010)により構成した。

作成した質問紙を、協力が得られた24市区町村および26の双子育児支援団体等を通し335人に質問紙を配布した。

4) 分析方法

本研究では、以下の手順にてデータの分析を行った。

項目分析

本研究で検討した各質問項目の得点の平均値、標準偏差を算出し、分布の偏りの有無や歪度・尖度、天井効果・床効果を確認した。

構成概念妥当性の検討

プロマックス回転を用いた主因子法による探索的因子分析を行った。項目選択基準は、共通性が0.16以上であること、固有値が1以上であること、因子負荷量が0.35以上であることとした。

信頼性の検討

尺度全体および各因子のCronbachの α 係数、Item-Total(I-T)相関分析により信頼性を確認した。さらにPearsonの相関係数によって、下位尺度得点間の相関を確認した。

基準関連妥当性の検討

J-MCQを用いてデータ収集を行い、本研究にて作成した双子の母親としての自信尺度との相関を確認した。

4. 研究成果

有効回答が得られた142人(有効回答率82.1%)を分析対象とした。

1) 項目分析

31項目の平均値、標準偏差、歪度、尖度を検討した結果、分布に偏りがあると判断した

10 項目を削除し，21 項目とした。

2) 構成概念妥当性の検討と因子の命名

項目分析後の 21 項目について，主因子法，プロマックス回転による因子分析を実施した。因子数はスクリープロットをもとに 3 因子とした。各項目の共通性は 0.237～0.746 であったが，の 1 項目の因子負荷量はどの因子とも 0.35 以上を示さなかったことから，この 1 項目を削除し再度分析を行った。その結果，全ての項目が選択基準を満たしたため，3 因子 20 項目を採用とした。

第 1 因子は 9 項目で構成され，双子の母親が双子一人ひとりの個性を理解しそれぞれの児に応じた育児を行っている項目と考えられ《双子の個性の理解と育児の能力》と命名した。第 2 因子は 7 項目で構成され，双子の母親が育児にかかる労力や時間を調整することにより，自身にゆとりを持つことができている状態を表わす項目と考えられ《双子の母親としてのゆとり》と命名した。第 3 因子は 4 項目で構成され，双子の母親として，自身が双子の育児を行う能力を持っていると自覚できている項目ととらえ《双子の母親としてのの有能感》と命名した。

3) 信頼性および妥当性の検討

尺度全体の Cronbach の α 係数 0.882 を示し，各因子においても 0.7 以上の信頼性係数を示した。また I-T 相関では，すべての項目 (Item) と尺度総得点 (Total) との間の Pearson の相関係数は 0.414～0.715 ($p<0.01$) であり，有意な正の相関が認められ，3 つの下位尺度得点間においても 0.345～0.513 ($p<0.01$) であり，有意な正の相関が認められた。基準関連妥当性についても，有意な正の相関 ($p<0.01$) が認められたことにより，信頼性と妥当性が確認されたと判断した。

本研究は，市区町村で行われる乳児健康診査および双子育児支援団体等の活動に参加する双子の母親を対象としたため，育児支援が受けられている母親が含まれている。したがって，母親への育児支援が双子の母親としての自信獲得に影響を及ぼしている可能性は否定できない。また，対象の負担を考慮して再テスト法を行っていないことから，安定性について確認する必要があると考える。今後，調査対象を増やした検証的な研究を行い，本尺度の活用可能性を検討することが課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 渡邊由香	4. 巻 19
2. 論文標題 双子を育児している母親の感情に関する文献検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山梨県母性衛生学会誌	6. 最初と最後の頁 9 - 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊由香 名取初美 平田良江	4. 巻 63
2. 論文標題 双子の母親としての自信尺度の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本母性衛生学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 渡邊由香 名取初美 平田良江
2. 発表標題 双子の母親の育児に対する感情についての文献検討
3. 学会等名 日本助産学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	名取 初美 (Natori Hatsumi) (10347370)	山梨県立大学・看護学部・教授 (23503)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平田 良江 (Hirata Yoshie) (50326097)	山梨県立大学・看護学部・教授 (23503)	
研究分担者	萩原 結花 (Hagihara Yuka) (50381710)	山梨県立大学・看護学部・准教授 (23503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関